



# 学校だより

平成 26 (2014) 年 3 月 8 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

## 《補習校で学ぶ子どもたちの国語（日本語）力向上に、 今後ともご支援ご協力をお願いします》

3 月（弥生）に入り、気温が急激に下がる日が多くなりました。天候は目まぐるしく変わり、先ほどまで暖かな日がさし穏やかな一日になるのではと思ったのもつかの間で、急に強い風が吹き、黒い雲が辺り一面を覆い、あられ混じりの雨が強い風を伴って降ってくることもあります。この時期特有の、クライストチャーチの天候を表しているのかもしれませんが。日本では卒業シーズンを迎え、中学校や高校では級友やお世話になった先生方に別れを告げ、新たな進路を目指す卒業生に出会う季節でもあります。

補習校の児童・生徒は、1 年間のまとめをする大切な時期を過ごしております。各学年で学習した内容を復習して、しっかり理解し活用できるようにすることが大切です。児童・生徒一人ひとりの教育環境は、それぞれ違いがあります。長期滞在の家庭や国際結婚された家庭で育った児童・生徒は、それぞれ日本語の言語環境が違います。家庭教育環境が多少違っていても、児童・生徒本人の学習に対する真摯な取り組みと懸命な努力、さらに強い目的意識が、日本語力の定着と向上につながります。海外で生活する児童・生徒の日本語力は、毎日の継続的学習と、特に「読書」「作文」「漢字」「聞く・話す」の鍛錬を日常的に行うことが大切です。そして、家庭での保護者皆様の強いご支援ご協力が、児童・生徒の補習校での学習を継続的に支えることにもなります。

カンタベリー日本語補習校に求められていることは、通学している児童・生徒の日本語力の定着と向上です。それは年間 156 時間の指導時間を用いて、国語、算数・数学、社会（5 年生以上）の教科指導と学校行事を通して、絶え間なく教材の工夫と学習展開の工夫・改善を進め、児童・生徒に知識や理解、技能の習得を図り、日本語に基づく思考力、判断力、表現力を深め高めることです。限られた指導時間の中で最大限の学習効果を上げるため、家庭学習は絶えず求められ、「家庭は第二の教室、保護者は第二の担任」と言われ続け、各家庭のご協力、ご支援をいただく理由でもあります。

保護者の皆様にはご存知の通り、補習校は土曜日だけの登校であり、国語の教科書内容を学習する場合、補習校の授業の進む速さは日本の 2 倍を超える速さで進めております。また、日本でも児童・生徒に宿題の提出を求めますが、補習校の宿題は日本の 2 倍前後の内容になるかと思えます。補習校の児童・生徒は、平日は現地校に通いながらの厳しい教育環境のもとで日本語力の定着と向上のため、国語と算数・数学、社会（5 年生以上）の学習に取り組んでいます。

カンタベリー日本語補習校は、日本の政府から財政的支援をいただきながら、補習校の児童・生徒が将来日本へ帰国することになった場合、日本の学校教育にスムーズな適応ができるよう国内で使用している教科書を用いて、日本語で指導を行っています。国語、算数・数学等一部教科の基礎基本を習得させ、日本の学校の学習習慣、生活習慣を指導し、併せて日本の学校文化を体験させることを目的としています。補習校は、その目的に沿いながら、補習校に通う全ての子どもたち一人ひとりを認め、ほめ、励まし、学習成果があげられるよう、全職員で研修を重ね日々努力を重ねてきているところです。

過日、保護者の方から補習校の子どもたちへ励ましの言葉をいただきましたので紹介します。その方は、日本へ一時帰国した際に、お子さんを日本の学校へ体験入学させての感想でした。「日本の学校では、補習校の学習指導内容とほぼ同じように指導していました。そのため、子どもは日本の学校であわてることなく、学習内容を十分理解することができ、自信を持って日本の学校で生活することができました。また、学級の子どもたちとも楽しく過ごすことができ、大変喜んでいました。」

このように補習校での学習が、日本への帰国に際してお子さんが日本の学校教育にもスムーズに適応でき、自信を持って学校生活を送れることをお聞きして、とても嬉しく思いました。今後も子どもたちの国語（日本語）力をしっかり身に付くよう、補習校教育の充実に引き続き努力を重ねていきます。

### お知らせ 小中学部 教員募集

補習校では、来年度の教員を募集しております。詳しくは、事務局までメールでお問い合わせください。（[cjsnzn@hotmail.com](mailto:cjsnzn@hotmail.com)）